

事業完了式典への参加

我が国の UN-HABITAT を通じた福岡方式を用いた廃棄物処理支援

2019年3月15日、松永大介大使は、H29年度補正予算にて採択された UN-HABITAT による「アディスアベバ・コシェ地区に於ける「福岡方式」の導入を通じたゴミ処理方法改善支援」事業の完了式典に出席しました。同方式は、垂直に立てたパイプを通じて地中に溜まったメタン・ガスを放出するものである。本支援は、2017年3月に倒壊したコシェ・ゴミ集積場に対し、総額2百万ドルにて福岡方式の技術を用いた集積場の安定化及び再崩落防止の修繕工事を行いました。テープカット後、松永大使は、ソロモン・アディスアベバ副市長、マンジザ UN-HABITAT アフリカ地域事務所長、福岡方式の技術支援のために訪エ中の松藤康司福岡大学名誉教授らと完成したコシェ・ゴミ集積場を視察し、最後にサインボード兼崩落事故記念碑の除幕を行いました。



大使によるスピーチ



テープカット



松藤名誉教授とコシェ・ゴミ集積場を視察



記念撮影（左より、松藤教授、マンジザ UN-HABITAT 地域事務所長、松永大使、ソロモン副市長、